

2021 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（○を付けてください） 古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 モンsoon文書・イエズス会日本書翰・VOC 文書・EIC 文書の分野横断的研究
3.新規・継続の別 継続
4.申請者 松方冬子（特殊史料部門・准教授）
5.所内共同研究者 岡美穂子（特殊史料部門・准教授） 岡本真（特殊史料部門・助教・） 水上たかね（近世史料部門・助教） 大東敬典（特殊史料部門・助教）
6.希望する研究期間 2019 年度～2021 年度 （3 年間）
7.課題の概要（400 字程度） （この項は広報等に利用・掲載することがあります） 本研究では、エスタード・ダ・インディア、イエズス会、オランダ東インド会社（VOC）、イギリス東インド会社（EIC）という、広域的で非（あるいは半）国家的な組織の、おもに 17 世紀に本部とアジア拠点間で取り交わされた情報について、内容だけでなく、史料学的な観点からも、多角的な検討を加える。従来、南欧語史料・オランダ語・英語史料はそれぞれ別々の研究者によって担われてきた。しかし、近年、双方を視野に入れた研究が出始めている。こうした状況をふまえ、本研究は、共通のテーマについて専門を異にする研究者が密接な討論を行うことにより、そのような方向性を一層推し進める。 現在グローバル化する世界の中で歴史学のあり方にも変化が求められているが、海外の動向の安直な輸入や評価への対応としてではなく、日本史学の内在的發展とその成果に基づき、今まで蓄積されてきた学知のつなげ方を刷新することによって、国際的な貢献を模索する。同時に、世界的な要請でもある厳密な史料読解に基づく研究を担える次世代の育成も目指す。
8.研究の目的（400 字程度） 東京大学史料編纂所は、多くの欧文史料のマイクロフィルムやデジタル画像のコレクションを有しており、今後ますますの活用が望まれる。しかし、今まで、利用する研究者数が少なく、実際に利用されている史料はごく一部だと考えられる。しかし、近年の研究動向によって新しい問題群に光が当たり、アジア情勢全般の中で日本を捉えるという、これまでにはない形での活用も可能になってきた。そこで本研究では、東京大学史料編纂所と深い関係にある日本学士院国際学士院連合関係事業「日本関係未刊行史料調査事業」とも連携しつつ、課題名に掲げた文書のなかでも、あまり利用されてこなかったものにとくに注目し、それを分野横断的に討議する。あわせて初学者にも理解できるように史料読解の方法を明示的に示す。

すことで、研究の活性化を図る。

2019年度は、研究会集會を1回開催し分野横断的な研究報告を行なった(2回目も計画していたが新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止せざるを得なかった)。また、モンスーン文書翻訳検討会、入門書の企画、*Corpus Diplomaticum Neerlandico-Indicum* が主に依拠した文書、通称 *Contractboeken* (オランダ国立中央文書館所蔵東インド会社文書の一部)の現状調査、デジタル画像の蒐集を行い、オランダ・ライデン大学で研究発表を行った(米国の学会での成果発表は、学会が中止となりできなかった)。

2020年度は、9月に研究集會を開催(対面/オンライン)。6月に史料編纂所と共催の国際研究集會”Indian Ocean, 1600-1800: Expanding Horizons of the Maritime Histories in Japan”(17-18世紀のインド洋—日本をめぐる海域史研究の広がりのために—)を計画していたが、年度後半に延期してオンライン開催とする見込み。イエズス会文書館からの招聘による国際研究集會を行う計画は、次年度に延期。入門書の編集、モンスーン文書翻訳、*Contractboeken* 調査は継続しており、あらたに *Corpus Diplomaticum* の翻訳を開始した。また、可能であれば、デンマーク国立文書館での史料調査を行う。

9.共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400字程度)

研究の目的の実現は、さまざまな専門の研究者が一堂に会することで初めて可能になるので共同利用・共同研究として進める意義がある。基礎となる史料の翻刻・翻訳のほか、最終的には海外のジャーナルに投稿できるような英語論文の執筆も支援する。

また入門書『日本史に興味がある人のためのオランダ語史料のよみ方:17~19世紀(仮)』の編集と刊行を行う。

10.研究の実施計画

- ・イタリア/米国から研究者1名招聘・あわせて関連研究会開催(新規・2020年度より延期)
- ・スリランカ国立文書館における史料調査、研究交流。
- ・研究集會1~2回開催(継続)
- ・モンスーン文書翻訳検討会開催(継続・2020年度より延期)
- ・入門書編集・刊行(継続)
- ・*Contractboeken* の調査・検討(継続)。*Corpus Diplomaticum* の翻訳(継続)。

11.研究成果の公開計画

- 1) 新たに翻刻・翻訳した史料は、東京大学史料編纂所ウェブサイト成果物掲載ページもしくは『東京大学史料編纂所研究紀要』等で公開する。
- 2) 欧文史料読解のための入門書の出版。
- 3) 各自論文執筆。可能なら国際的なジャーナルへの投稿。
- 4) 海外からの研究者招聘に伴い、公開の国際研究集會を開催する。

12.共同研究員にもとめる役割

- 1) 研究会への参加、研究報告。論文執筆。可能ならば国際的なジャーナルへの投稿。
- 2) 今まで注目されていなかった史料の紹介、翻刻、翻訳。
- 3) 欧文史料読解のための入門書編集への参加、助言。

(記入欄は適宜行数を増減して記入して結構ですが、2頁に収めてください。)